

舩にいる生物と、人が暮らしやすい 環境を創る



危険な生物

・ チャドクガ（幼虫）



毒針毛は非常に細かく、長袖でも夏服などは繊維のすきまから入り込む。

・ ヤマカガシ、マムシ



おとなしいが、毒はマムシの三倍程度。体色は地域変異があるから分かりにくい。アオダイショウに似ているから注意。

・ セアカゴケグモ



素手で触るなどしなければ、噛まれることはない。毒はメスのみ。

・水アブ（幼虫）



屋内侵入性が強く、異物混入などの問題を起こします。

幼虫が偶発的にひとの消化器官に入り、腸内ハエ症を起こした例もある。

・腸内ハエ症

食べ物に付着した卵を飲み込むことが原因となる場合もある。

生きている組織を侵す。

対処・駆除方法

・薬剤を使うときの注意

薬剤が皮膚につかないように、長袖、長ズボン、ゴム手袋、マスクなどを着

用する。（幼虫などは、死骸にも毒針があるので注意）

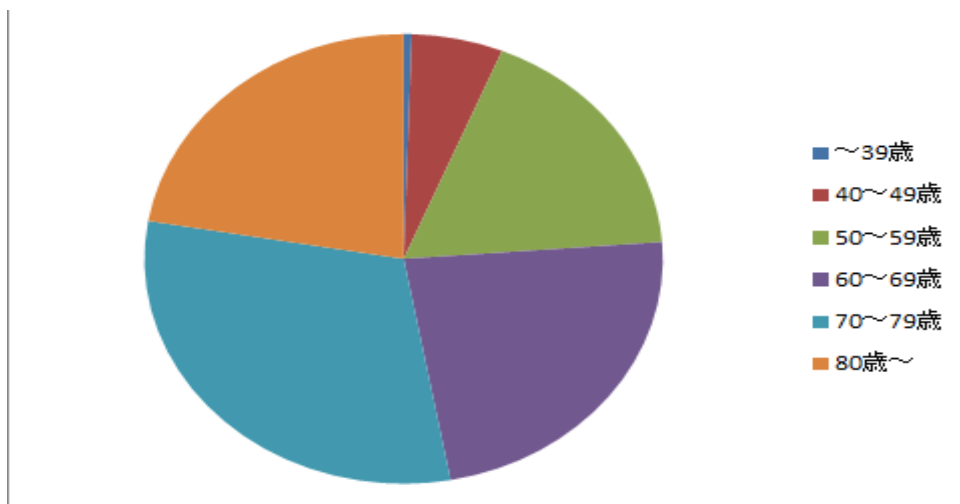
毒蛾などの幼虫はハチや寄生バエなどがいるので、自然界のバランスを保

つことも、大切です。

セアカゴケグモは殺虫剤をかけるか、踏み潰すなどの方法がある。

水アブは蓋付のゴミ箱や防虫ネットを利用します。

オオスズメバチ



被害は特に70歳～79歳の高齢者に多いです。

鞆の浦は高齢者の方が多いので危険です。

また建物、樹洞、地中など種によって営巣する場所も異なっている。

でも、ハチ自体に危害を与えなかったら基本、人にも危害を与えないので、発見しても刺激しないようにする。

スズメバチ類による刺傷被害月別発生状況（1988-2007）

	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
コガタ		34	117	209	234	191	35		820
キイロ			5	18	14	5	1		43
ヒメ			1	3	2				6
モン			2	10	1	2			15
オオ			1	5	13	14			33
クロ					2		1		3
計		34	126	245	266	212	37		920
		3.7%	13.7%	26.6%	28.9%	23.0%	4.0%		100%

対処方法

・ やってはいけない対処方法

こする、搔く→被害を広げる恐れがある

刺されたときの洋服を、そのまま洗濯機で洗う→毒針が他の服へ移ってし

まう。

ただしい応急処置方法

粘着テープで毒針を取り除く→症状が出ている箇所を中心にテープで取り除く。

流水で洗う→患部を清潔にし、毒針を落としたり、腫れを防ぐ効果が期待できる。

抗ヒスタミン軟膏を塗る→あまりにも症状がひどい場合は、病院へ

こういう所に潜んでいるかもしれないので注意

